

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ミニパネルでつくろう！身近な便利グッズ (USB付スマホ充電器／自然素材のイルミネーション)
事業主体 (連絡先)	一般社団法人小諸エコビレッジ 03-5805-3577
事業区分	環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,012,754 円 (うち支援金 810,000 円)

事業内容

ミニ太陽光パネルを使ってスマホ充電器 (モバイルバッテリー充電器兼用) を製作するワークショップを開催した (計 5 回)。実生活の中で活躍&活用できるツールをつくるだけでなく、太陽電池をより身近に感じてもらうため、「日本のエネルギー事情Q&A」や太陽電池や電気に関する基礎知識の解説も交えた座学も合わせて実施した。また、「太陽電池の賢い使い方」としてスマホへの直接充電ではなく、モバイルバッテリーに充電する「電気を貯めて使う」方法などのレクチャーも行った。

食用ほうずきの殻をランプシェードにしたLEDイルミネーションづくりのワークショップも開催した (計 1 回)。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 座学を入れたことで、太陽電池・電気に関する基礎的な知識の理解は得られた。
- ② 太陽電池を使うと、手作りでも電気をつくり出せる事、また生活の中で十分に活用出来る事などを体験してもらう事で、太陽電池への親和性、身近さを感じてもらえた。また市内には 20 台が普及した。
- ③ 通常廃棄される食用ほうずきの殻を再利用できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・今回確立したワークショップ内容をブラッシュアップし、市内で継続してミニパネルワークショップを開催していく。身近なツールとしての太陽電池への理解を深め、実際に体験してもらう場を多くの方に提供していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(活動写真)



【ワークショップ風景】

【目標・ねらい】

- ① 太陽電池への関心と理解を深めてもらう
- ② 市民にとってより身近なツールとして太陽電池を活用してもらう。
- ③ 小諸市特産品の活用

※自己評価【 B 】

【理由】

参加者数は目標に到達しなかったものの、ワークショップ自体は評価が高く、予定していた効果は得られたと感じた。